



2012/12/1 No.61

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会

本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

常務理事
事務局長

西尾 建

本年も利用者、職員に大きな事故等が無く、クリスマスを迎えられることに感謝致します。

また、本年は法人にとって設立から五十年という大きな節目の年でありました。あらためて皆様に感謝を申し上げます。

さて、法人の働きも毎年少しずつ拡大し、新たな使命が与えられております。法人の直近の動向について課題を交えて次の三つの切り口でご報告したいと思います。

一つ目は事業です。本年は上総湊に七十名の特別養護老人ホームを開設いたしました。お蔭様でこの施設も入所希望で待機されていた利用者の方をスムーズにご案内することができ、開設から半年でほぼ定員が満たされることになりました。また、法人として初めての事業となりますが、障害者虐待防止法の施行に伴い君津圏域四市（富津、君津、木更津、袖ヶ浦）から障害者虐待防止センターとして夜間、休日の相談窓口の事業及び緊急一時保護の事業を受託いたしました。

これからの計画としては、「児童家庭支援

センター」（地域、家庭、里親等からの相談受け付け、支援の実施など、児童相談所を補完する機能も持つセンター）と「訪問看護事業」（利用者の居宅に看護職員を派遣し、医師の指示による医療処置、病状の観察、療養上のお世話、相談支援等を行う事業。）を地域の福祉ニーズとして捉え、これを進めるべく理事会に諮り承認されたところです。

二つ目はハード面です。東京湾に近い立地も手伝って建物の老朽化が進んできております。計画的・段階的に補修や更新を行う必要があります。計画的・段階的に補修や更新を行う必要があります。計画的・段階的に補修や更新を行う必要があります。計画的・段階的に補修や更新を行う必要があります。

三つ目はソフト面です。福祉を支えるのは何と言っても人材です。人としての思いやりや笑顔、専門職としての知識・経験・技術、社会人・組織人としての考え方など、身につけなければならないスキルは盛り沢山です。取り分け、人員の増大の中では法人の理念の浸透や理解は重要な課題です。

その様な中、近年良く耳にする言葉に「ライフワークバランス」があります。これは仕事と私生活の調和を図って両立しようということです。当法人でも現在、四名の育児休業中の職員がおります。その他にも看護休業、介護休業、年次有給休暇の時間単位取得等、

職員のライフスタイルに合わせた働き方を尊重する必要があります。しかし、入所施設では二十四時間三百六十五日利用者の生活を支えており、当然のことながら利用者の生活も担保しなくてはなりません。福祉業界の慢性的な人員不足の中で、より働き易い環境も整備しつつ、利用者の生活の質を向上させていくのは難しい面もあります。制度や設備の見直し、職員の働き方や配置、職員の相互協力、業務の創意工夫等が必要になっています。

のぞみ会の職員数は非常勤職員も含め約二四〇名となりました。時代の移り変わりとともに規模の変化にも対応した法人経営が求められます。然しながら、そこに福祉に対する理念、理想、情熱を欠いては意味がありません。これからも良き方向に導かれますよう御支援・御指導をお願い申し上げます。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家

軽井沢旅行

指導員 高杉 至子

八月二十二日から二十四日にかけて寮生四名と職員二名で軽井沢へ行きました。寮生たちが休みを合わせて忙しい仕事の毎日から離れて出かける二泊三日は貴重なひと時です。

当日の朝、寮生たちは自分なりのおしゃれをして旅行カートを引きながら東京駅へと向かいました。途中、渋谷駅のコビニではそ

れぞれが楽しみながら好きなお菓子を買い、東京駅のホームでは、はしゃぎながら写真を何枚も撮っていました。

新幹線に乗車してすぐに皆でウノを始

めましたがあつという間に軽井沢に到着。駅を出ると皆が口をそろえて「涼しい」と喜びました。さわやかな風を感じながら昼食へと向かいます。自分で注文した食事をとてもうれしそうに携帯やデジカメで撮り合ったり、分けあったりもしました。

午後は自由にアウトレットへ行くはずでしたがショッピングよりもみな一緒にボーリングとゲームをしたいということになり夕方まで楽しみました。

夜、軽井沢の家に着いてからは休む間もなく、庭で花火をしました。寮生たちが前もって自分たちで買っていたもので次々と火をつけてはキャッキヤとにぎやかに暗闇の中に火の花を咲かせていました。それから昼間の続きのウノをして夜はふけて行きました。二日目はふた手に分かれてのサイクリング



です。日差しが強い中でも元気に自転車をこいで旧軽井沢に戻ってきました。別行動の予定だった午後の温泉は結局いっしょに行くことになり、二人が温泉に入っている間、もう二人はとんぼがたぐさん飛んでいるガーデンでゆったりと待っていました。

そしてその夜も二階の寝室からふざけている声が聞こえていたかと思うとリビングでの笑い声になり皆の楽しそうな声はいつまでも響いていました。

帰り道、ひとりの寮生が「きれいだったよ。見て、見て!」と、サイクリングで行った矢ヶ崎公園や雲場の池などの写真を見せてくれました。それは軽井沢の青い空や緑、水面にうつる木々のこずえや夕暮れ、そして寮生たちの笑顔でした。お天気にも恵まれて無事に旅を終えたこと、何よりも一つの小さな家族としていっしょに楽しい三日間を過ごせたことを感謝します。

婦人保護施設 望みの門学園

福島スパリゾート ハワイアンに行く

作業指導員 天野 典子

望みの門学園では、十月二十三・二十四日に福島県のハワイアンへ一泊旅行に行きました。復興後の福島を訪ねてみたいという目的から、利用者全員と職員六名の計二十六名は東



京からの無料送迎バスで向かいます。

東京まではアクアラインの高速バスです。前日からの低気圧で強風が吹き荒れ、アクアラインが通行止めになったらどうしようかと心配でしたが、時速四十kmで通行可でした。渋滞にも巻き込まれ、東京駅に着いたのは予定よりも遅い九時半でした。

出発は十時。トイレ休憩などでばたばたしつつ何とか全員バスに乗り、福島へと出発しました。予約しておいた宇都宮名物の笠間いなり弁当を車中で食べました。

三時間後、無事ハワイアンに着きました。ポリネシアンショーは、皆楽しみにしていました。舞台上上がって踊ると首にレイをかけてもらえ、ニコニコしていました。

温水プールや屋上の温泉などグループごとに楽しみましたが、寒さのためサウナや熱い湯のある場所に気付くと固まっていました。早めに露天風呂に入っただ後は、ゆったりと過ごしました。夕食はバイキングです。ステーキや刺身、揚げ物、果物やデザートを思う存分食べました。



二日目は、朝から裏磐梯山と五色沼散策です。山の頂上付近の紅葉は素晴らしく、山が赤と黄色で埋め尽くされていました。利用者からも「きれい」と言う声があがっていました。五色沼への道は、ところどころロープやコーンが置かれていましたが、想像していたよりもきれいでした。福島の人々の復旧への強い意欲を感じることができて嬉しかったです。利用者には、自分達の義援金が役立っているということを感じてもらえたかなと思います。

養護老人ホーム 望みの門 楽生園

生活相談員 松田 一史



楽生園では十一月一日(木)に単独で運動会を行いました。運動会開催にあたり、運動会委員を立ち上げ、再三話し合った結果、「ホールインワン」「風船プールバトル」「乗っかるかなあ?」「物リレー」の四種目に決定しました。

その一部を紹介します。「ホールインワン」は定番の輪投げからの発想で輪投げのボード代わりに菓子箱、バケツ、洗面器に点数を付けて設置し、輪の代わりに玉入れの玉を投げました。

定番のボードのように斜めにしない為、浅い菓子箱には入りにくく、玉も弾む為、箱に入り

にくかったです。

輪投げが得意な利用者様でもなかなか入らず、思わず「悔しい」と言う声がちらほらと聞こえて来ました。また、最高得点の十点の箱の中に玉が入ると利用者様はもちろん職員からも「おお!!」「すごい!!」の驚きの声と共に大きな拍手が湧き起りました。



「風船プールバトル」はダンボールをつなぎ合わせ直径三m程の円を作りその中に敵の職員が一人入り、円の外側の周りには風船をちらばせ、利用者様が円の中に風船を入れ、職員は入ってきた風船を出します。三十秒間の利用者様と職員のバトルです。利用者様から「いっぱい入れるぞ!!」

等の声が聞こえ、笑いながら円の中に風船を入れている姿と一所懸命風船を外に出す職員の姿は微笑ましい光景でした。

昼食は、合同厨房で作った数種類のおかずやおにぎりをバイキング形式で食べました。「これがほしい」「あれがほしい」と普段は、摂取量の少ない利用者様も積極的に指を指して職員から取ってもらいおいしそうに食べる

姿が見られました。

利用者様の感想は、運動した後に食べるせいか、「おにぎりが美味しかった。」との事、運動の秋と言うより食欲の秋と言う感じがしました。競技を行っている姿は、皆真剣な顔つきで取り組む姿が印象的でした。普段見る事の出来ない顔を拝見できるのも、運動会の楽しみの一つだと思います。今年の優勝は白組でした。ちなみに私は紅組だったので悔しかったですが、利用者様が楽しめた事が一番の報酬だと思います、今後も楽しめる競技内容を工夫して行きたいです。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

キリスト教高齢者福祉研修会に参加して

事務員 神田 督

平成二十四年四月一日付で、望みの門紫苑荘の事務員を拝命いたしました。

紫苑荘の仕事内容はそれまでの法人事務局総務課のそれとはかなり違っており、未だに悪戦苦闘中です。幸いにも前任者の大貫主査がすぐ近くにおられ、根気よく教えてくださいますので助かっております。一日も早く皆様のお役に立てるようがんばって行きたいと思っております。

十月十八・十九日、兵庫県宝塚市で開催された「キリスト教高齢者福祉研修会」に参加

をさせていただくことができて、今でも大変感謝しております。その研修の中で強く印象に残った講演がありました。日本基督教団愛知老人コミュニティセンター・介護付有料老人ホーム『まきば』に関わる講演でした。同施設は二〇一二年三月に「週刊ダイヤモンド」誌上で日本一の施設として紹介されております。評価基準は八項目にわたり、全ての項目が満点の施設とのことでした。

中でも、一番衝撃を受けたことは、『全ての利用者の方々に、必ず敬語で接する』ことを、全職員が遵守されておられるとお聞きしたことです。一例として、『□□様、今日お出かけになっておられる間に、お嬢様がお見えになりました。〇〇と△△をお預けになってお帰りになれました。お嬢様にご確認のお電話を差し上げてくださいませ。』

利用者の方々は最高のお客様であり、あらゆるサービスについて最高のものを提供させていただくことを、全職員が常に心がけておられるとのことでした。

聖書に、最も重要な教えとして「隣人を自分のように愛せよ」と記されています。私自身はいつも聖書とは正反對の「自分中心」から抜け出せません。

人は誰でも例外なく老年期に至り、死を迎えます。望みの門紫苑荘で過ごされる一日一日が、利用者の方々の明るい笑顔と滲み出る感謝に満ちたものになり、そのためにこそ事

務職の大切さがあることをいつも忘れず、少しずつ少しずつ成長させてくださいと祈り続けて行きたいです。

特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

出会いから半年



副施設長 白鳥 尋子

七月に従来型多床室、そして九月にはユニット型がオープン。

まだまだ軌道に乗ったとは言えない中、入所者の皆さんは新しい環境にも慣れ、各々のリズムで一日を過ごされているようです。職員もカラオケ・風船バレーなど少しずつレクリエーションを通じて入居者様との余暇を過ごせるようになってまいりました。また、月一回誕生会と季節に応じた行事を計画し、ボランティアの方々をお招きして、太鼓や踊り等を披露していただき、地域の皆様のご協力により、とても有意義な時間を過ごすことができいております。

訪問者は大人の方に限らず、湊幼稚園の子供たちが、歌や、楽器を演奏してくれたり、直接入居者様の肩をたたきながらコミュニケーションをとって下さる場面もありました。平日の天気の良い時はお隣の当法人方舟乳児園の子供たちが庭で遊び、窓越しにおじいちゃん・おばあちゃん達に会いに来てくれます。小さな子を見るときの入居者様はとても

優しい表情ですつと笑顔が絶えません。処方される薬よりも元氣が出る良薬のようです。開所から半年が経ち、未だ試行錯誤の毎日ではありますが、地域の皆様の協力に感謝しつつ、入居者様の笑顔が絶えることのない、満足していただけるサービスをめざしていこうと思います。



▲納涼会
心に響く和太鼓



▲納涼会
みんなで盆踊り



敬老会 ▶
湊幼稚園の子供たちとの交流

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター
**マッサージサービス
はじまりました！**

生活相談員 立和名康代

十月より新たなサービスとして「無料マッサージ」が開始されました。

デイサービス利用時間内にいつでも利用して頂けます。マッサージ師が常駐している施設は少なく、利用者の皆様にも大変好評です。デイサービスでは「おもてなしの心」を大切にお一人お一人に合った施術を看護師・介護士・マッサージ師と協力し行っております。疲れた身体を休ませる空間・つらい症状を緩和させる場所として利用して頂きたいと思えます。

施術時間は一回二十分～三十分で施術前には十分なカウンセリングを行い利用者様と向き合い信頼関係を構築しつつ始めさせて頂いております。

会話の中で何十年前の怪我やご病気の事など思い出される方もおられます。

揉み返しなど体に負担をかけない優しいマッサージなので安心して下さい。

デイサービスの存在意義は色々あるとは思いますが、在宅介護家族にとっての安心と本人にとっての安全が一番だと考えております。原点に戻って考えると、そもそも幼稚園・保育園・学校などとは違い異なる背景やニーズがありますが、介護が必要なのであれば誰も高いお金を払ってまでデイサービスに通わせたいとは思えません。休みなしの在宅介護に安心と安全を与え、長く信頼して頂けるデイサービスを目指し心がける事は、「笑顔」です。

朝お迎えに行く時は必ず「笑顔」で利用者

様の様子を聞きながら、送り出しを待ってご自分の仕事に向かわれる利用者様の家族には「いつでもらっしゃい！」と声を掛けます。



笑顔で繋がり、笑顔で一日を終えられる様に、笑顔が絶えぬ様に……そして日々の生活が輝くものとなるようにお手伝いをさせて頂きたく、私たちは今日も頑張ります。

有料老人ホーム 望みの門ハイム
私たちの道しるべ

看護師 渡邊 零子

ハイムの入居者様の健康管理や相談・通院介助等を兼務しております。

早いもので四か月過ぎました。朝の笑顔の挨拶から始まり、ハイムの入居者様と仲良くさせて頂いておられます。八月は夏祭りでは花火や盆踊りで楽しみ、九月は敬老会で写真を見せていただきながら思い出に聴き入り、苦しかった戦争体験をたくましく乗り越え、今の日本を作ったことに感謝しました。十月は運動会で、いつもとは違う童心に帰った笑顔を見せていただきました。

月二回あるお買いものツアーでは、皆さんダンボールに沢山食品を買ってこられます。職員は夕食の時間が近づくところからこちらのお部屋から美味しい香りを頂き、何やらぐるぐるとお腹が鳴り響きます。

コーヒータ임も月二回あり、美味しいコーヒーやお茶、お菓子を頂きながら入居者様のご意見を聴き予定を決め、お喋りやゲームを行い楽しみや生活に変化をと考えております。入居者様や職員ともに：体重増加が気になるのですが：成人病に注意が必要です。

十一月は紅葉見物を考えております。どんな笑顔が見られるか楽しみです。

老化は誰しもみな平等に避けて通ることのできない過程です。入居者様お一人お一人生まれてきた歴史があり、そのありようや生きがい・受け止め方、支援の受け方も違います。皆さん豊かな経験をもちで、私たちの「道しるべ」になっておられます。これからもハイムが暖かい家族となるる



よう入居者様お一人お一人生きてきた時代における意味を考えながら皆様に寄り添っていきたく思っております。

就労継続支援事業 望みの門新生舎

「地域とのスポーツ大会」



職業支援員 小池 定直

十月六日。毎年恒例の地域交流スポーツ大会が晴天のもと、大勢のご来賓と地域の方々、また法人各施設が一同に会し盛大に開催されました。

競技プログラムは盛り沢山。かずさの里の子どもたちによる徒競走から始まり、パン食の競争、綱引きに玉入れ、ボール回し、「赤組頑張り、白組負けるな」と子どもから老人まで一つひとつの競技に声援が行き交います。そしてなんとと言っても今年の目玉は昨年までのデカパンリレーに代わり新たに実行委員で考えた「施設対抗仮装リレー！」です。各施設が趣向を凝らして施設長を仮装させるという競技です。第一走者から順に衣装を着せていくと段々何の仮装なのか判ってきます。エブロン姿の世話人さん……。大きなアンパンマン？……。一度脱がされてしまった施設長はとうとう裸の王様に。そして特別賞はなんと男の白雪姫！。近くで見るとちょっと変な……。でも、様々な衣装に身を包んだ姿に会場は笑いの渦に包まれました。



この様にして楽しく過ごした一日でしたがそれ以上に地域の方々とこのスポーツ大会を通じて「地域の中に根付き感謝し共に生きる」このことを実感しました。今のご時世、インターネットやメールなど、情報化社会と言われている中で、スポーツを通じ、身体を動かし共に汗をかく、皆で協力しながら笑顔でコミュニケーションをとれるこの機会がとても貴重で大切だと感じています。

来年も再来年も……年月が流れて行く中で途絶える事なく地域交流を深める一つの行事（宝物）として、このスポーツ大会が行われていくように心から祈っています。

おわりに、当日までの準備作業や前日の設営、そして当日は朝早くから大勢の職員に協力を頂きました。更に大会を終えた後の片付

けや掃除にも多くの職員の協力を頂き、実行委員としてとても嬉しく感じました。紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。

共同生活介護・援助事業 グレースホーム

「常勤世話人」として



世話人 角谷 幸子

平成十八年六月父が亡くなり先の見えな
い悩みを抱え苦しんでいる時、突然お隣さん
から「望みの門で食事を作る人を探している
から、角谷さん働いてみない？」と声をかけ
られました。近くに住んではいたものの、望
みの門のことは全く分からなかったため少し
不安でしたが、お話だけでも聞いてみようと思
い訪ねてみることにしました。事務局を尋
ねると職員の方が待っていて下さり、グレイ
スホームに案内していただきました。世話
人としての仕事の内容を職員さんから伺った
時は、私にできるだろうか？と心配になりま
したが、説明して下さる職員さんの話から利
用者さんに対する熱心さと暖かさを感じ、頑
張って働いてみようかと決心し、引き受けるこ
とにしました。

世話人の仕事を始めた当初は、覚えなくて
はいけないことが沢山あり大変でしたが、仲
間の世話人さん達の優しさや暖かさに助けら
れ、徐々に慣れていくことができました。ま
た、障害のある方のお世話は初めてでしたが、

食事を作るという主婦の私には日常的で普通
のことでも、毎回美味しいと言ってくれるな
ど、日々お世話をするという関わりのおかげ
私の心は少しずつ変化していき、むしろ癒さ
れていくのを感じました。

この間、グレースホームで働くようになってから、私生活でも様々なことがありまし
た。母の骨折による二ヶ月の入院、そして母
との同居、子どもの結婚と孫の誕生、夫の退
職などと目まぐるしく環境が変化していきま
した。また、自分自身の夢だった調理師免許
を取得することができたことは、自信にもつ
ながり、先が見えないと思っていた悩みもい
つしか解決していたのです。何より色々な方
のお世話になり、母が心身ともに元気になっ
たことがうれしく感謝する気持ちでいっぱい
です。

こうして非常勤の世話人として五年が経過
した今年の七月に、「常勤として働いてみま
せんか？」とのお話があり、家族の協力も得
られたことから、八月から常勤の世話人とし
て新たなスタートを切ることになりました。
先輩世話人に教えていただきながら、勉強の
毎日で奮闘中です。まだまだ微力で足を引っ
張っている状態ですが、一日でも早く力にな
れるよう前向きに努力しながら
頑張っていきたいと思っています。



地域活動支援センター 望みの門ヨカデイサービスセンター

おいおい調理実習



介護員 倉本 幸一

秋も深まり、まさにヨカデイは一年中、食
欲の秋そのままです。利用者さんに何を食べ
たいか調理実習のメニューを聞くと「体が温
まる物が食べたいよ。」との答えがかえって
来ました。「雑炊が食べたい」と言う声が出
て、私が月一で『望みの門、釣りクラブ』で
シャクリマダイ釣りに行ったことを話すと次
の日に利用者さんから、「釣れた？」と聞いて
きました。「マダイが釣れたから鯛飯と鯛
雑炊を食べよう。」と言うと、「どこの魚屋さ
んから買って来たの」と聞かれ、「上総湊か
ら船に乗り、金谷沖で自分がマダイを釣った
んだ」と話すと、「僕も、釣りに連れて行っ
て」と言われて困りました。「船は小さいか
ら、大きな船がそばを通るとゆれて船から落
ちたら大変だし、船酔いになると釣りに成ら
ないんだ」と話すと、「じゃあ行かない」と
諦めてくれました。二匹釣れないと足りなく
て、鯛飯も出来ないのではないかと心配して
くれる利用者もいます。「色々な野菜を刻ん
で中に入れるから大丈夫。そんな簡単には
釣れないんだよ。一日船に乗ってようやく一
匹釣れたんだ。これで鯛飯と鯛雑炊を作ろう
ね。」ということになりました。

下ごしらえは船の上ですませたので、ヨカの台所で少し焼いて、炊飯器に入れて炊き始めましたが、うまく炊けなくて再度鍋で炊き直して何とか鯛飯と鯛雑炊が出来上がりました。

利用者さんが、「美味しい」と言って、食べてくれました。準備の時、魚の骨を取ってくれたりして皆で楽しみながら作り、食べました。利用者さんから、「又、釣りに行ったらもっと大きな鯛で鯛飯を作って食べよう。」と言われ嬉しくなりました。

調理実習をすると、お手伝いが出来る人と出来ない人がいますが、出来るだけ全ての利用者さんが何かしら出来る様に見守りながら楽しく、食べたい物を作りたいと思います。加齢と共に段々出来なくなってきましたが、食べる事に喜びを持ち、何でも食べたいと思う気持ちは皆さん持っている様です。

職員から、食べ過ぎると太るので運動もして行かないと、体が動けなくなるしゆっくりと味わってほしいと声掛けしています。

これからも色々な調理実習を計画して行きたいし、そのためにおいしい魚をたくさん



釣って提供してあげたいと思っています。皆さんと力を合わせて笑顔で頑張りたいと思います。

千葉県中核地域生活支援センター 君津ふくしネット 障害者虐待防止センター開設

相談支援員 横浜 敬子

平成二十四年十月より「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、君津ふくしネットでは、市役所閉庁後の平日午後五時十五分～翌日午前八時三十分、及び土日祝日年末年始について、圏域四市の虐待通報・届出・相談などを受けるとなりました。

この法律が虐待を受ける「障害者」として定義しているのは、障害者基本法にある身体障害・知的障害・精神障害のある方で、虐待の種類を、身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、放棄・放置、経済的虐待の五分類としています。

また、虐待の起こる場所を家庭内に限定せず、福祉施設や職場にも想定し、虐待を行う者として、養護者の他、福祉施設の職員や職場の上司等も想定範囲に含めた対策の必要性を明記しています。

障害者に対する虐待を早期に発見し、問題が深刻化する前に、障害者や養護者に対する支援を行う事を目指すもので、罰則規定を設

けていません。

市町村や県は虐待を受けた障害者に対して必要に応じた一時保護や措置をし、高齢者虐待防止法と同じく、同時に養護者への支援も行うものです。養護者が障害の知識や特性について理解が不足していたために適切な対応ができなかったり、介護疲れによるストレスが虐待の要因となる場合がありますが、その様な場合は障害者福祉サービスの利用につなげたり、家族会への参加やカウンセリングの利用を勧めるなどにより、障害者の権利を擁護するというものです。

行政だけでなく、学校・医療機関・保健所・障害者福祉施設など障害者の福祉に関係する私たちの役割も重要で、障害者虐待を発見しやすい立場にあることから、障害者虐待の早期発見に努めなければならないとされています。

この法律が施行されたことや、いつでも気軽に相談できる窓口がある事を広くみなさんにお知らせし、虐待を未然に防がなければなりません。障害者虐待防止に向けた社会全体の取り組みが求められています。皆さんのご理解とご協力をお願いします。



児童養護施設

望みの門かずさの里

子の成長と自身の成長



保育士 中村 美佳

子どもの成長はとても早く、半年、一年で見違えるほどの成長を見せてくれます。

一年前まで「ち」「ば」しか話せなかった年少の女の子は、九月から幼稚園に通い、歌を唄ったり、手遊びを覚えて帰ってきます。また、苦手だった自分の気持ちを話せるようにもなりました。一方、年長の男の子は、年中時に入園したのですが、運動会では表情も固くお遊戯でも棒立ちの状態でした。年長となった先日の運動会では組体操や鼓笛の演技を、笑顔と誇らしげな顔で堂々と取り組んでいました。なによりも、何事にも積極的に行動するようになりました。

「まだ、小さいから出来ないだろう…」は大人だけの見方で、子どもはなんにでもチャレンジしようとしてくれます。また、繰り返し教えたことはきちんと身につけることが出来ます。子どもの「やってみたい」に対して、支えてあげ、失



敗することを恐れず、出来たことを一緒に喜び合えるように努めています。とはいえ、甘えたい年頃の子どもがたくさんあります。自分で出来たり、大人に手伝ってもらったり、出来ないことで悔しい思いをしたり、日々様々な声が飛び交います。そんな経験がひとつひとつの成長に繋がっていくのだと思います。

さて、子どもの成長に比べ、私自身の成長はどうでしょうか。日々、子どもたち相手に悪戦苦闘している中、改めてふり返りますと、子どもへの対応がこれで正しかったのか、もっと子どもの声に耳を傾けてあげればよかったのか、毎日が反省です。何気ない日々の生活の中で、子どもたちに安堵感を与え、子どもにとって必要な存在になっていけるように努めたいと思います。同時に、子どもにとり必要な甘えや要求を、充分受け応えられるような器と、表現を身につけなければと考えます。

まだまだ、私自身の成長はおぼつきませんが、子どもがより安心・安全に暮らせるよう物心両面を整え、互いの信頼関係を築き、深めることに全力を注ぎたいと思います。

乳児院 望みの門方舟乳児園

成長を見守る



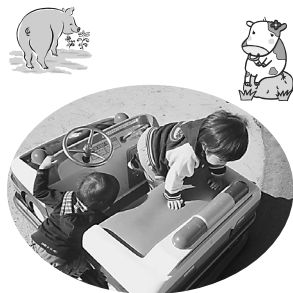
施設長 白鳥 正道

長かった暑い夏が過ぎ、気がつけばもう「イ

ルミネーション点灯」のニュースが聞こえてくる時期となりました。

アメリカの大統領選は歴史的僅差のなか現職大統領の再選に沸き、また四年間の政権が継続される見込みです。日本の総理大臣はこの四年で四人目の野田内閣がついに解散を明言しました。アメリカと違い日本はそんなにリーダーシップを発揮できる人材が豊富に揃っているのでしょうか。二〇〇九年歴史的政権交代を経験し、三年後「政党やトップが代わっても…」せめて日本のトップとして、長期的に変わらない顔として世界に発信できる代表の登場を願うばかりです。

さて、本年度も三分の二が過ぎました。同じ敷地には七十床の特別養護老人ホームが建ち多くの方が訪れるようになりました。九月八日には富士見の里と方舟乳児園との間に日独交流一五〇周年記念として日本に贈られた菩提樹の植樹式が行われました。年月を掛け大変大きくなる木です。上総の地で根を下ろし大きく育ち、日差し強い日には木陰で休めるようになることでしょうか。どれぐらい先になるかわかりませんが、成長が楽しみです。今年、春以降、公園や海、図書館などに複数回出かけをしました。お弁当を持って一人ひとりリュックを背負って遠足気分です。時には雨に降られたり、時にはファミリールレストランで食事をしてみたり、一つ一つが貴重な日常の体験です。車に乗ること、お



弁当を外で食べることも、知らない人たちと出会うこと、出かけた先でみるもの全てが初めての体験ということも少なくありません。十一月十五日には幼児五人でマザー牧場へ行ってきました。子ブタのレースにも二名が参加し、



子ブタと一緒に走ってきました。ワンワンバスの怖がる子、仔牛に近づいては逃げてくる子、どうしても一人で乗り物に乗りたいたい子ども、普段見られない色々な表情を見ることが出来、成長を感じました。

乳児院に居る時間は限られて短いですが、とても大切な時間です。家庭的養護を実践するうえで、生活の中にあるなんでもない経験がごく自然に提供できる、そんな環境が実現出来ればなあと感じます。

これからもっと多くのことを経験しそれぞれ育っていくことになりましたが、自分が大切にされた経験が自分を創っていく中で少しでもプラスになってほしいと願わずにはいません。

望みの門福祉学校

ホームヘルパー二級養成講座

校長 佐野 毅

介護保険制度のスタートにあわせて開講した本講座も、おかげさまで今期で十三期目の講座を迎え、修了者数も述べ約二〇〇名余となりました。開講当初は、ホームヘルパー三級講座を中心に開講しました。理由は、主に知的にハンディのある方々の社会参加の一助にしたい、という思いからでした。

しかし、世の中が急激に高齢化社会を迎えつつある中で、政府の方針も「施設介護」から「在宅介護」中心へと方針転換が図られるようになり、当ホームヘルパー養成講座も時代の変遷に追随するべく、ホームヘルパー二級養成講座を中心に開講するようになりました。特に昨年度からは、年間三期にわたり講座を開講し、ひとりでも多くの方に介護の基本を学んでいただき、介護の担い手となっていく



ださる方を増やしていきたい、という思いで進めております。

ありがたいことに、最近では地元の学生さん（高校生や大学生）からの応募が徐々に増えてきています。「老老介護」や「一人暮らし高齢者」の増加が社会問題となっている昨今ですが、若い人たちがこうして介護の世界に飛び込んできてくれることは大変ありがたいことだと感じています。

国は、現行のホームヘルパー養成講座のあり方を見直し、より高度な介護技術の習得を目的として、来年度から「介護員初任者研修」という制度に改めることとしています。

望みの門でも、こうした国の動きに合わせて、来年度からは「介護員初任者研修講座」として、ホームヘルパーさんたちの介護技術のレベルアップを目指した新たな講習に取り組んでまいります。

編集後記

今年もアドベントを迎えた。図らずも望みの門学園と楽生園では外壁塗装工事中であり、化粧直しをした美しい建物でクリスマスを迎えることとなる。この世界に仕えるためお生まれ下さったイエスさま。のぞみ会は基本理念・品質方針において「地域住民の方々福祉サービスに努力します」と謳っている。私たちも地域のパートナーとして「仕える」精神を大切にしていきたい。